



VSC、VASA Provider、 SRAを導入またはアップグレードする

VSC, VASA Provider, and SRA 9.7

NetApp
April 01, 2025

目次

VSC、VASA Provider、SRAを導入またはアップグレードする	1
VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのダウンロード方法	1
VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する	1

VSC、VASA Provider、SRAを導入またはアップグレードする

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスをダウンロードしてVMware vSphere環境に導入し、その後、VSC、VASA Provider、SRAを使用して実行するタスクに基づいて必要なアプリケーションを設定する必要があります。

- 関連情報 *

[仮想データストアを設定するための VASA Provider の有効化](#)

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのダウンロード方法

Virtual Storage Console、VASA Provider、Storage Replication Adapter仮想アプライアンスの「.ova」ファイルは、[こちら](#)からダウンロードできます。

「.ova」ファイルには、VSC、VASA Provider、SRAが含まれています。導入が完了すると、3つの製品がすべてインストールされます。導入モデルを決定し、その要件に基づいて VASA Provider と SRA を有効にするかどうかを選択すると、すぐに VSC が起動します。

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスは、[こちら](#)からダウンロードできます "ネットアップサポートサイト" ソフトウェアのダウンロードページを使用します。

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入時にSRAを有効にする場合は、Site Recovery Manager (SRM) サーバにSRAプラグインをインストールしておく必要があります。SRAプラグインのインストールファイルは、「ソフトウェアのダウンロード」セクションの「ONTAP *用Storage Replication Adapter」メニューからダウンロードできます。

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する

Virtual Storage Console (VSC)、VASA Provider、Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスを環境に導入し、アプライアンスを使用できるように必要なパラメータを指定する必要があります。

作業を開始する前に

- サポートされているリリースの vCenter Server が実行されている必要があります。



VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを登録できるのは、Windows環境のvCenter ServerまたはVMware vCenter Server Virtual Appliance (vCSA) 環境です。

["Interoperability Matrix Tool : VSC 9.7"](#)

- vCenter Server 環境を設定およびセットアップしておく必要があります。
- 仮想マシン用の ESXi ホストのセットアップが完了している必要があります。

- 「.ova」ファイルをダウンロードしておく必要があります。
- vCenter Server インスタンスの管理者のログインクレデンシャルが必要です。
- vSphere Clientのすべてのブラウザセッションからログアウトして、ブラウザを閉じておく必要があります。また、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入時にブラウザキャッシュ問題 がブラウザキャッシュに表示されないようにするには、ブラウザキャッシュを削除しておく必要があります。

vSphereにキャッシュされているダウンロード済みプラグインパッケージをクリーンアップします

- Internet Control Message Protocol (ICMP) を有効にしておく必要があります。

ICMPが無効になっていると、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの初期設定が失敗し、導入後にVSCがVSCサービスとVASA Providerサービスを開始できなくなります。導入後に、VSC サービスとVASA Provider サービスを手動で有効にする必要があります。

このタスクについて

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを新規に導入する場合は、VASA Providerがデフォルトで有効になります。ただし、以前のリリースの仮想アプライアンスからアップグレードする場合は、アップグレード前のVASA Providerの状態が維持されるため、VASA Providerを手動で有効にしなければならない場合があります。

"仮想データストアを設定するための VASA Provider の有効化"

手順

1. vSphere Client にログインします。
2. ホーム[ホストおよびクラスター]メニューを選択します。
3. 必要なデータセンターを右クリックし、* OVA テンプレートの導入 * をクリックします。
4. 該当する方法を選択してVSC、VASA Provider、SRAの導入ファイルを指定し、* Next *をクリックします。

場所	アクション
URL	VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの「.ova」ファイルのURLを指定します。
フォルダ	VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの「.ova」ファイルを保存先から選択します。

5. 詳細を入力して、導入ウィザードをカスタマイズします。

を参照してください ["導入のカスタマイズに関する考慮事項"](#) を参照してください。

6. 構成データを確認し、[次へ *] をクリックして導入を終了します。

展開が完了するまで待つ間に、[タスク]タブから展開の進行状況を表示できます。

7. 仮想アプライアンス仮想マシンの電源をオンにして、仮想アプライアンスを実行している仮想マシンのコンソールを開きます。

8. 導入の完了後に、VSC、VASA Provider、SRAの各サービスが実行されていることを確認
9. VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスがいずれのvCenter Serverにも登録されていない場合は、「+ https://appliance_ip:8143/Register.html」を使用してVSCインスタンスを登録します。
10. vSphere Clientからログアウトして再度ログインすると、導入したVSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスが表示されます。

vSphere Client でプラグインが更新されるまでに数分かかる場合があります。



ログインしてもプラグインが表示されない場合は、vSphere Clientのキャッシュをクリーンアップする必要があります。vSphereにキャッシュされているダウンロード済みプラグインパッケージをクリーンアップします

完了後

[NOTE]

====

ONTAP 9.6以前を使用している場合、vVolダッシュボードを表示するには、をダウンロードしてインストールする必要があります。ただし、ONTAP 9.7の場合は、VASA Providerに登録する必要はありません。

====

xref:{relative_path}task-register-oncommand-api-services-with-the-virtual-appliance-for-vsc-vasa-provider-and-sra.adoc[VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスに登録する]

:leveloffset: +1

[[ID334431758c98f8079746f1e816c0789c]]

= 導入のカスタマイズに関する考慮事項

:allow-uri-read:

:icons: font

:relative_path: ./deploy/

:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/

[role="lead"]

VSC、VASA Provider、

SRA仮想アプライアンスの導入をカスタマイズするときは、いくつかの制限事項について考慮する必要があります。

== アプライアンスの管理者ユーザのパスワード

管理者パスワードにはスペースは使用できません。

== アプライアンスのメンテナンスコンソールのクレデンシャル

メンテナンスコンソールにアクセスするには、「 maint
」ユーザ名を使用する必要があります。導入時に「 maint
」ユーザのパスワードを設定できます。パスワードは、VSC、VASA Provider、
SRA仮想アプライアンスのメンテナンスコンソールの*アプリケーションの設定*メニューを使用し
て変更できます。

== vCenter Server 管理者のクレデンシャル

vCenter Serverの管理者クレデンシャルは、VSC、VASA Provider、
SRA仮想アプライアンスを導入するときに設定できます。

vCenter Serverのパスワードが変更された場合は、次の
URLを使用して管理者のパスワードを更新できます。`_https_://<IP>:8143/Register.html`
。IPアドレスは、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入時に指定した
IPアドレスです。

== vCenter Server の IP アドレス

* VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの登録先となるvCenter
ServerインスタンスのIPアドレス（IPv4またはIPv6）を指定する必要があります。

+

生成される VSC 証明書と VASA 証明書のタイプは、導入時に指定した IP アドレス（ IPv4
または IPv6 ）によって異なります。VSC、VASA Provider、
SRA仮想アプライアンスの導入時に静的IPの詳細とDHCPを入力していない場合は、IPv4アドレスと
IPv6アドレスの両方がネットワークから提供されます。

* vCenter Serverへの登録に使用するVSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの
IPアドレスは、導入ウィザードで入力したvCenter Server IPアドレスのタイプ（IPv4
またはIPv6）によって異なります。

+

vCenter Server の登録時に使用したものと同一タイプの IP アドレスを使用して、 VSC と
VASA の両方の証明書が生成されます。

[NOTE]

====

IPv6 は vCenter Server 6.7 以降でのみサポートされます。

====

== アプライアンスのネットワーク・プロパティ

DHCPを使用していない場合は、有効なDNSホスト名（非修飾）と、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの静的IPアドレス、およびその他のネットワークパラメータを指定します。これらのパラメータはすべて、適切なインストールと運用のために必要です。

```
:leveloffset: -1
```

```
[[IDb2e25f94c098ed841d83286fe6f2115b]]
```

= 仮想データストアを設定するための VASA Provider の有効化

```
:allow-uri-read:
```

```
:experimental:
```

```
:icons: font
```

```
:relative_path: ./deploy/
```

```
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

```
[role="lead"]
```

Virtual Storage Console (VSC) 、 VASA Provider、 Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスでは、 VASA Provider 機能がデフォルトで有効になっています。 VMware 仮想ボリューム (vVol) データストアは、それぞれの vVol データストアに必要なストレージ機能プロファイルを使用して設定できます。

.作業を開始する前に

- * vCenter Server インスタンスをセットアップし、 ESXi を設定しておく必要があります。
- * VSC、 VASA Provider、 SRA仮想アプライアンスを導入しておく必要があります。

.このタスクについて

Virtual Storage Console (VSC) 、 VASA Provider、 Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンス9.7.1にアップグレードする前にVASA Provider機能が無効になっていた場合は、アップグレード後もVASA Provider機能は無効なままになります。本リリースでは、 VVOL データストアに対する vVol のレプリケーション機能を有効にすることができます。

.手順

- . VMware vSphere の Web ユーザーインターフェイスにログインします。

- ・ vSphere Clientで、メニューをクリックします。メニュー[Virtual Storage Console]。
- ・ [* 設定 *] をクリックします。
- ・ [管理設定 *] タブの [機能の管理 *] をクリックします。
- ・ 管理機能*ダイアログボックスで、有効にするVASA Provider拡張機能を選択します。
- ・ vVOL データストアのレプリケーション機能を使用する場合は、「 * vVol レプリケーションを有効にする * 」切り替えボタンを使用します。
- ・ VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのIPアドレスと管理者パスワードを入力し、* Apply *をクリックします。

.完了後

ONTAP 9.6以前のクラスタを使用している場合は、SAN vVol VMおよびSAN vVolデータストアのレポートで使用されるvVolデータストアと仮想マシンの詳細を取得するために VASA Providerに登録する必要があります。ただし、ONTAP 9.7以降を使用している場合は、VASA Providerに登録する必要はありません。

```
:leveloffset: +1
```

```
[[ID2489d4e89bdb1ff7dc7883e2f27483f3]]
= VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスに登録する
:allow-uri-read:
:icons: font
:relative_path: ./deploy/
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

```
[role="lead"]
```

ONTAP 9.6以前を使用している場合、VMware仮想ボリューム（vVol）データストアと仮想マシンの詳細をvVolダッシュボードに表示するためには、VASA Providerに登録してvVol VMおよびデータストアのレポートのデータを取得する必要があります。

.作業を開始する前に

から2.1以降をダウンロードしておく必要があります。

```
[NOTE]
```

```
====
```

vVolダッシュボードには、ONTAP 9.3以降を使用してSAN vVolデータストアと仮想マシンが設定されている場合にのみパフォーマンス指標が表示されます。

```
====
```

.手順

- ・ Virtual Storage Console (VSC) * Home *ページで、* Settings *をクリックします。
- ・ [管理設定*]タブの[拡張機能の管理*]をクリックします。
- ・ [API OnCommand サービスの登録*]スライダを使用して有効にします。

. のIPアドレス、サービスポート、およびクレデンシャルを入力します。

+

VASA Provider拡張機能の管理

*ダイアログボックスを使用して、次の変更を行うこともできます。

+

** クレデンシャルに変更があったときに登録を更新する。

** vVolダッシュボードが不要になったときに登録を解除する。

+

VASA Providerの登録を解除するには、「OnCommand APIサービスの登録

*」チェックボックスをオフにする必要があります。

. [適用 (Apply)] をクリックします。

+

vVolダッシュボードには、の登録が完了した時点で初めて、ONTAP 9.6以前のSAN vVolデータストアの指標が表示されます。

* 関連情報 *

[https://mysupport.netapp.com/site/\["ネットアップサポート"^\]](https://mysupport.netapp.com/site/[)

```
:leveloffset: -1
```

```
[[ID10d608d08227fabde17e52c384211e45]]
```

```
= NFS VAAI プラグインをインストールします
```

```
:allow-uri-read:
```

```
:icons: font
```

```
:relative_path: ./deploy/
```

```
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

```
[role="lead"]
```

Virtual Storage Console (VSC) 、 VASA Provider、 Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスのGUIを使用して、 NFS Plug-in for VMware vStorage APIs for Array Integration (VAAI) をインストールできます。

.作業を開始する前に

* NFS Plug-in for VAAI

(`.vib`)のインストールパッケージをからダウンロードしておく必要があります。

+

`https://mysupport.netapp.com/site/["ネットアップサポート"^]`

- * ESXiホスト6.5以降とONTAP 9.1以降をインストールしておく必要があります。
- * ESXiホストの電源をオンにし、NFSデータストアをマウントしておく必要があります。
- * 「DataMover.HardwareAcceleratedMove」、 「DataMover.HardwareAcceleratedInit」、 および 「VMFS3.HardwareAcceleratedLocking」 のホスト設定の値を「1」に設定しておく必要があります。

+

これらの値は、* Recommended Settings *ダイアログボックスが更新されると、ESXiホストで自動的に設定されます。

* `vserver nfs modify -vserver vserver_name -vStorage enabled`` コマンドを使用して、`vstorage` オプションを有効にしておく必要があります。

.手順

- . からダウンロードした「.vib」ファイルの名前を、VSCで使用する事前定義された名前に変更してください。
- . VSCのホームページで「* Settings」をクリックします。
- . NFS VAAI ツール * タブをクリックします。
- . [既存のバージョン * (Existing version *)] セクションで [* 変更 * (Change *)] をクリックする
- . 名前を変更した「.vib」ファイルを参照して選択し、「*アップロード」をクリックして仮想アプライアンスにファイルをアップロードします。
- . ESXiホストにインストールする*セクションで、NFS VAAIプラグインをインストールするESXiホストを選択し、*インストール*をクリックします。

+

画面に表示される手順に従ってインストールを完了する必要があります。インストールの進行状況は、vSphere Web Client のタスクセクションで監視できます。

- . インストールが終了したら、ESXi ホストをリブートします。

+

ESXi ホストをリブートすると、NFS VAAI プラグインが VSC で自動的に検出されます。プラグインを有効にするための追加の手順は必要ありません。

```
[[ID63bfef9a734f73b2d380fed13ab1fbbe]]
= Storage Replication Adapter を有効にする
:allow-uri-read:
:experimental:
:icons: font
:relative_path: ./deploy/
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

[role="lead"]

Virtual Storage Console (VSC) 、 VASA Provider、 Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスには、ディザスタリカバリを設定するためにVSCでSRA機能を使用できるようにするオプションがあります。

.作業を開始する前に

- * vCenter Server インスタンスをセットアップし、 ESXi を設定しておく必要があります。
- * VSC、 VASA Provider、 SRA仮想アプライアンスを導入しておく必要があります。
- * Site Recovery Manager (SRM) ディザスタリカバリ解決策を設定する場合のみ、 SRA プラグインの .msi ファイル、または SRM アプライアンスの .tar.gz ファイルをダウンロードしておく必要があります。

+

https://docs.vmware.com/en/Site-Recovery-Manager/8.2/com.vmware.srm.install_config.doc/GUID-B3A49FFF-E3B9-45E3-AD35-093D896596A0.html["Site Recovery Manager Installation and Configuration Site Recovery Manager 8.2 』を参照してください"^] に詳細を示します。

.このタスクについて

VASA Provider と SRA の機能を柔軟に有効化できるため、必要なワークフローだけを実行できます。

.手順

- . VMware vSphere の Web ユーザーインターフェイスにログインします。
- . vSphere Clientで、メニューをクリックします。メニュー[Virtual Storage Console]。
- . [* 設定 *] をクリックします。
- . [管理設定 *] タブの [機能の管理 *] をクリックします。
- . Manage Capabilities * ダイアログボックスで、有効にする SRA 拡張機能を選択します。
- . VSC、 VASA Provider、 SRA仮想アプライアンスのIPアドレスと管理者パスワードを入力し、 * Apply *をクリックします。
- . SRA を導入するには、次のいずれかの方法を使用します。

+

[cols="1a,1a"]

|===

| オプション | 説明

a|

Windows SRMの場合

a|

- .. ダウンロードした SRA プラグインの .msi インストーラをダブルクリックします。
- .. 画面に表示される指示に従います。
- .. 導入した仮想アプライアンスのIPアドレスとパスワードを入力します。

a |
SRM アプライアンスの場合

a |
.. SRM アプライアンスのページにアクセスし、SRM アプライアンスの * Storage Replication Adapters * ページに移動します。
.. [新しいアダプタ] をクリックします。
.. SRA プラグインの .tar.gz インストーラを SRM にアップロードします。
.. アダプタを再スキャンして、SRM * Storage Replication Adapters * ページで詳細が更新されていることを確認します。

|===

+

選択した拡張機能が設定可能になったかどうかを確認するには、vSphere Client からログアウトして、再度ログインする必要があります。

* 関連情報 *

xref:{relative_path}concept-configure-storage-replication-adapter-for-disaster-recovery.adoc[ディザスタリカバリ用の Storage Replication Adapter を設定する]

:leveloffset: +1

```
[[ID58dd640944b4ac964234244c7e2d0ec7]]  
= Storage Replication Adapter (SRA) クレデンシャルを更新する  
:allow-uri-read:  
:icons: font  
:relative_path: ./deploy/  
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

[role="lead"]

SRM が SRA と通信するためには、SRA クレデンシャルを変更した場合に SRM サーバ上のクレデンシャルを更新する必要があります。

.作業を開始する前に

「SRM アプライアンスでの SRA の設定」に記載されている手順を実行しておく必要があります。

xref:{relative_path}task-configure-sra-on-srm-appliance.adoc[SRM
アプライアンスで SRA を設定する]

.手順

. 次のコマンドを使用して '/SRM/SRA/conf' ディレクトリの内容を削除します

+

```
.. cd /SRM / SRA /conf
```

```
.. RM-RF *
```

. perl コマンドを実行して、 SRA に新しいクレデンシャルを設定します。

+

```
.. cd /SRM / SRA /
```

```
.. Perl command.pl -i <va-IP>管理者<va-password>
```

```
:leveloffset: -1
```

```
[[IDf4338035d63616f21b888606a5dfceee]]
```

= Windows SRM から SRM アプライアンスへの移行

```
:allow-uri-read:
```

```
:icons: font
```

```
:relative_path: ./deploy/
```

```
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

```
[role="lead"]
```

ディザスタリカバリに Windows ベースの Site Recovery Manager (SRM) を使用している場合、同じセットアップで SRM アプライアンスを使用するには、Windows のディザスタリカバリセットアップをアプライアンスベースの SRM に移行する必要があります。

ディザスタリカバリの移行に必要な手順は次のとおりです。

. VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの9.7.1リリースへのアップグレード

+

```
xref:{relative_path}task-upgrade-to-the-9-7-1-virtual-appliance-for-vsc-  
vasa-provider-and-sra.html["VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス  
9.7.1にアップグレードする"^]
```

. Windows ベースの Storage Replication Adapter をアプライアンスベースの SRA に移行します。

. Windows SRM のデータを SRM アプライアンスに移行します。

https://docs.vmware.com/en/Site-Recovery-Manager/8.2/com.vmware.srm.install_config.doc/GUID-F39A84D3-2E3D-4018-97DD-5D7F7E041B43.html["ここをクリックしてください"^] を参照してください。

```
[[ID37752b3365adf894bae839d0baf5772c]]
= VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス9.7.1にアップグレードする
:allow-uri-read:
:experimental:
:icons: font
:relative_path: ./deploy/
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

[role="lead"]
ここに記載されている手順に従って、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス 9.7.1への直接アップグレードを既存の9.7から実行できます。

.作業を開始する前に

* VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス9.7.1の「.iso」ファイルをダウンロードしておく必要があります。

* VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスがアップグレード後に最適に機能するためには、12GB以上のRAMを確保する必要があります。

* vSphere Client のブラウザキャッシュをクリーンアップする必要があります。

+

xref:{relative_path}task-clean-the-vsphere-cached-downloaded-plugin-packages.adoc[vSphereにキャッシュされているダウンロード済みプラグインパッケージをクリーンアップします]

.このタスクについて

VASA Provider のステータスは、アップグレード後も既存の導入環境と同じになります。アップグレード後に要件に基づいて VASA Provider を手動で有効または無効にする必要があります。ただし、従来のデータストアのプロビジョニングやストレージアラームのストレージ機能プロファイルが有効になるため、VASA Provider は VMware 仮想ボリューム (vVol) を使用していない場合でも有効にすることを推奨します。

[NOTE]

====

9.7より前のリリースから9.7P2以降への直接アップグレードは、VSC、VASA Provider、

SRA仮想アプライアンスではサポートされていません。最初に既存の環境をVSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス9.7にアップグレードしてから、新しいリリースにアップグレードする必要があります。VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンス9.7.1にアップグレードし、VVOLレプリケーションを使用する場合は、Site Recovery Manager (SRM) がインストールされた仮想アプライアンスでvCenter Serverをもう1つセットアップする必要があります。

====

.手順

. ダウンロードした「.iso」ファイルを仮想アプライアンスにマウントします。

+

.. メニュー：設定の編集 [DVD/CD-ROMドライブ] をクリックします。

.. ドロップダウンリストから * Datastore ISO * file を選択します。

.. ダウンロードした「.iso」ファイルを参照して選択し、「パワーオン時に*接続」チェックボックスを選択します。

. 導入した仮想アプライアンスの* Summary *タブにアクセスします。

. * をクリックしますimage:../media/launch-maintenance-console.gif[""]*
メンテナンスコンソールを起動します。

. 「ドメインメニュー」プロンプトで、「システム構成」に「 2
」オプションを入力し、「アップグレード」に「 8 」オプションを入力します。

+

アップグレードが終了すると、仮想アプライアンスが再起動します。VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスは、アップグレード前と同じIPアドレスを使用してvCenter Serverに登録されます。

. VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスをIPv6アドレスでvCenter Serverに登録するには、次の手順を実行する必要があります。

+

.. VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの登録を解除する

.. 登録*ページを使用して、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのIPv6アドレスをvCenter Serverに登録します。

.. 登録後、VSC と VASA Provider の証明書を再生成します。

+

[NOTE]

====

IPv6 は vCenter Server 6.7 以降でのみサポートされます。

====

. vSphere Clientからログアウトして再度ログインすると、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスが導入されていることが表示されます。

+

.. 既存の vSphere Web Client または vSphere Client からログアウトし、ウィンドウを閉じます。

.. vSphere Client にログインします。

+

vSphere Client でプラグインが更新されるまでに数分かかる場合があります。

* 関連情報 *

xref:{relative_path}task-enable-vasa-provider-for-configuring-virtual-datastores.adoc[仮想データストアを設定するための VASA Provider の有効化]

```
[[ID991fa09f1a4861910c69070d900ce63b]]
= Storage Replication Adapter をアップグレードする
:allow-uri-read:
:experimental:
:icons: font
:relative_path: ./deploy/
:imagesdir: {root_path}{relative_path}../media/
```

```
[role="lead"]
```

VSC、VASA Provider、
SRA仮想アプライアンスをアップグレードするか最新バージョンの仮想アプライアンスを導入したら
、Storage Replication Adapter (SRA) をアップグレードする必要があります。

.手順

.

アダプタに応じて、次のいずれかの手順で最新のアダプタにアップグレードする必要があります。

+

```
[cols="1a,1a"]
```

```
|===
```

```
| * は ...* のため | 実行する手順
```

```
a|
```

* Windows *

```
a|
```

.. SRM Windows Server にログインします。

.. 既存の SRA `_msi` インストーラを SRM サーバからアンインストールします。

.. システム・パスを `C:\Program Files\VMware\VMware vCenter Site Recovery Manager\external\perl\c\bin'` に変更します

.. ネットアップサポートサイトからダウンロードした `.msi` インストーラをダブルクリックして、画面に表示される手順に従います。

.. 導入したVSC、VASA Provider、SRA仮想アライアンスの
IPアドレスとパスワードを入力します。

```
a|
*アライアンスベースのアダプタ*
a|
.. SRMアライアンス管理ページにログインします。
.. Storage Replication Adapter * をクリックし、 * Delete * をクリックして既存の
SRA を削除します。
.. [メニュー]、[新しいアダプタ]、[参照]の順にクリックします。
.. ネットアップサポートサイトからダウンロードした最新の SRA tar
ファイルををクリックして選択し、 * Install * をクリックします。
.. SRM アライアンスで SRA を設定する
+
xref:{relative_path}task-configure-sra-on-srm-appliance.adoc[SRM
アライアンスで SRA を設定する]
```

|===

:leveloffset: -1

:leveloffset: -1

<<<

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the
U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾が
ある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システ
ムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象
となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明
示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定さ
れないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、
使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェア
の使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然

的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data - Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b) (3) 項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015 (b) 項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、link:<http://www.netapp.com/TM>[<http://www.netapp.com/TM>^]に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。